

ITU-T SG5 副議長 (WTSA-16 選出 (新任)) 高谷 和宏氏 (NTT) に聞く

【読者のための豆知識】

SG5 (第5研究委員会)の活動内容：
環境と気候変動

専門領域：通信設備に係る電磁干渉問題、過電圧・電気安全問題の研究・標準化

略歴： 1995年 岡山大学大学院工学研究科電気電子工学専攻 修了
1995年 日本電信電話株式会社 NTT 通信網研究所
2006年 NTT 東日本 研究開発及びトラブルシューティング部門
2007年 ITU-T SG5 参加
2014年 電子情報通信学会・環境電磁工学研究専門委員会幹事
現在、研究専門委員として活動
2016年 ITU-T SG5 副議長就任 (現在に至る)



— 先の WTSA-16 での選出そしてご就任おめでとうございます。
今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

(高谷) 多くの方からのご支援をいただき、また、ご尽力いただいたことに感謝するとともに、副議長の重責を感じつつ、自分自身にどのような貢献ができるか、考え始めているところです。

— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。



(高谷) 2007年からSG5の会合に参加して以来、通信設備の電磁環境両立性(EMC)、雷防護、電気安全に関するITU-T勧告の作成に関わってきました。
また、電波障害を取り扱う、IEC傘下のCISPRにおいても活動しております。

— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

(高谷) SG5は、より持続可能な循環型社会を形成するために、省エネや環境に配慮したICTの活用、運用方法のベストプラクティスを示していくことが重要と考えています。同様に、EMCの分野においても、より安全で効率的な電波利用を継続していくためのリーダーシップを発揮することが重要と考えています。

— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(高谷) ICTの進展によって、人の生活が便利で豊かになっても、エネルギー消費や環境破壊がその犠牲となっては意味がありません。ICTの利点だけでなく、デメリットについてもよく検討し、その効果的な解決方法をSG5が出して行けるように努力したいです。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(高谷) ICTの普及状況や進展の歴史は加盟国で様々であり、同じ課題を取り上げても、その重要性や課題解決の効果に対する考え方は様々だと思います。コンセンサスを取るためには、落としどころの早く見つけることが重要と考えています。

— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(高谷) ITUはコンセンサスが得られたものを国際標準にする機関ですので、長期的に見た利益がどの国にももたらされるように、共通的な課題を常に共有することが重要と考えますし、解決に向けては、多分野のコラボレーションが重要と考えます。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(高谷) 百聞は一見にしかずだと思っておりますので、まず、色々なものを見て感じるための行動（趣味では旅行）を大切にしています。世界中が平和で、どのような国、地域にも安全に旅行ができるようになってほしいです。



— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(高谷) SG5 では、環境、気候変動、循環経済に関する研究を推進します。どの SG にも関係する課題であり、ICT 以外の分野とも共通の課題だと思います。SG5 が、全ての人にとって有効で、わかりやすい国際標準を作っていけるようにマネジメントしたいと思います。

文責：(一財) 日本 ITU 協会 (M)